

(別紙様式)

都道府県番号	35
都道府県名	山口県

(レ)

・学校名及び規模

徳山市立岐山小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	2	0	17	25
児童数	93	91	91	103	103	77	0	558	

・実践研究の概要

<p>主 題 学ぶことの楽しさや充実感を味わう学習指導をめざして ～時間的・精神的にゆとりをもって、 自分で様々な学習活動ができる学習指導～</p> <p>・ テーマ設定の趣旨 一人一人の理解や習熟、興味・関心に応じて編成した少人数学習を展開することによって、程度に応じた繰り返し指導などで「つまずき」を克服したり、課題にじっくり取り組ませたりするなどのきめ細かな教育活動を行うことができるのではないかと考えた。また内容的にも、子どもが楽しむことができる授業を仕組むことによって、結果として子どもは算数の学習内容を身に付けることができるのではないかと考えた。</p>

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

・ 少人数学習の展開

算数科、学年は2～6年生で実施した。

形態は、2・3年生は単学級を解体し、2グループを編成して実施。

4～6年生は全学級を解体し、5グループを編成して実施した。さらに2・3年生については、生活場面において学級担任とのつながりが強いため、担任と専科の教員が指導に当たることとした。4～6年生については習熟度にやや差が見られるため、学習ペースや課題の難易、また発展・補充的な内容を含んだ学習が展開できるよう、各グループごとに指導方法の工夫改善を図り実施した。

() 実践研究の内容

研究仮説

少人数指導への取組みを通して、その指導方法や評価における工夫改善に努めることにより、基礎・基本の定着を図り、個に応じたきめ細かな指導が展開できるのではないかと考えた。

少人数指導のグループ編成について

レディネステストの結果や各学年から提示された学習の方法等により、所属したいグループを児童と保護者とが相談して決める。各担任も適宜アドバイスを行っていく。4～6年生では基本的にA・B・Cの3つから希望をとり、そのうち人数の多いグループを2つないしは3つに分けて5グループを編成した。内容によっては、教師の支援やあらゆる手立てを多用するグループから、自分で課題を設定し解決に向けて学習を進めていくグループまで、学習方法は様々である。

各グループにおける指導について

学習方法別による少人数グループの編成を主に行ってきた。そのため、グループによって学習のペースやスタイルも変わってきた。各担当者は、希望するグループの子どもたちの実態に基づいて教材研究を行い、既習事項の繰り返し指導を適宜盛り込んだり発展的な問題を含ませたりしながら、意欲を持続させる授業展開に努め

てきた。また、そのための指導計画の見直しや児童にとって理解しやすい資料や説明方法等についても研修を重ねてきた。

少人数指導の体制および記録

少人数指導には、教頭、教務、そして専科教員3人の計5人と2～6年までの各担任が、指導に携わり実施した。

単元の学習に入る前に関係の指導者が集い、レディネステストの結果及び児童の希望をもとに、グループ編成、担当グループ、指導計画等を話し合う。それから指導を行う。

指導後、一時間ごとに、単元単位で作成した指導計画（ねらいが一覧になったもの）に気づきや指導の経過、様子などを記録し、単元終了後に使用した学習プリント等と併せてファイルに保管する。

少人数指導の保護者啓発について

年度当初に、文書により趣旨や実施内容・方法について説明を行った。さらに育友会総会でも全体説明を行ったほか、各学年で参観授業や学期ごとのアンケートを行い、感想や意見をいただいた。

発展的な学習と補足的な学習の取組みについて（事例）

・ 授業において 4年（わり算（2））

少人数指導において編成したグループの子どもたちの実態に応じて、指導計画を見直した。教科書の指導計画では、商の訂正を学習した後、商が2けたになる内容を学ぶように計画してあったが、わり算の筆算の仕方（アルゴリズム）を確実に習得させるため、グループによっては学習順序を入れ替えた。

また、本単元を学習するにあたり、必要となる既習事項に不安のある児童に関しては、九九表を持たせたり電卓を持たせたりするなどの手だてを工夫した。これにより、計算に対する不安感を和らげるとともに、わり算の筆算の仕方（アルゴリズム）についてしっかりとらえられるよう試みた。

指導においては、子どもたちが商の立つ位をより明確にできるようカードを用いたり、友達とわり算の筆算のアルゴリズムを繰り返し復唱しながら計算を試みたりできるような支援を行った。

・ のびのびタイム（朝の学習＝モジュール15分）

月曜から金曜までの始業前の15分間をのびのびタイムとして設定し、計算、読書、漢字、短作文等に継続して取り組むことで、基礎基本の力の定着を図ることに努めている。

（2年生 国語）

毎回（週1回）15分間で短作文を仕上げる練習を繰り返してきた。テーマを決めてその季節や行事に関係した題材をその場で知らせ、イメージを膨らませた上で、文にまとめるよう指導した。また、1文ごとに読み返し、誤字、脱字がないか確認する習慣を身に付けられるよう促してきた。3学期に入った現在では、題のつけ方にも工夫が見られるようになった。さらに、初めは数行しか書けなかった子どもも、書くことに積極性を持つようになり、短い時間で長い文章が書けるようになってきた。

・ サマースクール（長期休業中における学習指導）

自分の苦手なものを積極的に克服していこうとする子どもの願いや思いに応えるため、長期休業を利用して個別指導を中心に繰り返し指導等を行った。参加者は延べ300名近くに上った。

（5年 算数）

かけ算の筆算においては、ほぼ正確に答えを求めることができるのに対し、わ

り算の筆算になると正しい答えを出せない児童が多く見られた。そこで、長期休業中を利用し、希望者を募り指導を行った。

九九の繰り返し練習 商の立つ位の確認 アルゴリズムの確認
3位数÷2位数 小数のわり算

以上の流れで、基礎基本を重点に置き指導を行った。

() 成果と課題

・ 成果

今年度から加配教員が2名となり、前年度より1名増えたことにより、2年生以上の学年において少人数指導を実施することができた。このことにより、低学年から個のつまづきを早期にとらえたり、児童の希望や目的に応じた適切かつきめ細かな指導を展開することができた。

また、実施学年においてグループごとにそれぞれに合った学習方法や課題設定、ペースやスタイルの工夫改善を行ってきたことで、児童一人一人が意欲をもって主体的に学習でき、その学習成果は確実に上がっていると思われる。

2学期末に行ったアンケート（全児童対象）結果では、少人数指導を楽しみにしている児童が68%と全体の3分の2を上回った。

・ 課題

少人数指導を展開することを通して、それぞれの子どものニーズに応える指導を展開してきたが、今後、子どもや保護者からのニーズはさらに高まってくると予想される。そこで、これまでよりも困難な課題や発展的な内容を含んだもの、あるいはより取り組みやすい授業等のニーズに応えていけるよう、教師一人一人が研修を重ね、編成したグループの子どもたちに合った教材・教具の開発に努めるとともに、子どもの願いや思いを十分に受け止めた授業の展開を図ることが大きな課題である。

() 成果の普及方策

・ これらの取り組みや研究について、管内の各小中学校へ積極的に公開し、様々な角度からの御意見をいただいた。開催日時は以下のとおりである。

平成14年10月23日（水）校内研修会 校外参加者23名

5年生授業公開（少人数指導 算数科）

概要説明 全体協議会

受指導（徳山教育事務所 指導主事）

平成15年2月12日（水）校内研修会 校外参加者22名

2年生授業公開（少人数指導 算数科）

概要説明

受指導および講演

（広島大学大学院教育学研究科 助教授 小山正孝 先生）

平成14年12月3日（火）及び平成15年1月28日（火）研修視察来校

佐賀県校長会（30名）

4年生授業公開（少人数指導 算数科）

概要説明 質疑応答

平成15年2月10日（月）徳山管内学力向上フロンティア事業地区協議会

研究発表（本年度の研究への取組と成果及び課題）参加者80名

本年度の研究成果等をまとめた研究紀要を作成し、管内全学校に配布（3月）

・ その他

ホームページについては、現在作成に向け準備中である。